

ICS200 課題探求プロジェクト I

2年 1,2クォーター

担当教員	寺岡英男, Albert Lehner, Ph.D., 伊藤 勇, 横井正信, 木原泰紀, 木村 亮, 岡崎英一, 松田和之, 月原敏博, 皆島 博, 細谷龍平, Kelly King, Ph.D., 井上博行, 永井崇弘, 羽田野慶子, 今井祐子, 磯崎康太郎, 生駒俊英, 東村純子, 田中志敬, 栗原知子, 飯田健志, 中村友哉, Christopher Hennessy, M.A., Nicolangelo Becce, Ph.D., Ivan Lombardi, Ph.D.
授業形態	演習
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニング科目
単位数	2
曜日・時限	水曜日・3～5時限

授業概要

地域創生アプローチを選択する学生は、本格的なプロジェクト学習の開始点であり、幅広い課題の所在について学ぶことに主眼を置き、地域社会や企業等で発生する課題について、その実態や背景を理解することを目標に、教員の講義やゲストスピーカーの説明を受けてグループディスカッションを行い、さらに現場での活動体験やヒアリング、事後報告を行うことで、自分の問題意識を高める。

グローバルアプローチを選択する学生は、2年次後期に海外留学することも想定されるため、異文化理解教育のあり方や地域の中での外国人問題、県内企業のグローバル展開などをテーマに、学校現場や自治体等への訪問・視察、イベント参加を行う。

到達目標

- (1) 地域における企業、自治体、団体等の組織やその目的、およびそれらが直面する課題について概括的に理解し、以後の学習を深化させるために現場を踏まえた知識や情報を獲得する。
- (2) 地域の現場で発生している問題や地域で活動をしている人々の意識、考え方を理解し、自分の視野や問題意識を広げる。

期待される効果

- (1) 地域や地域で活動する組織・団体等のさまざまな課題を具体的に把握することができる。
- (2) 実社会を踏まえた将来の学びの構想を立てることができる。
- (3) グループワークの積み重ねにより、主体的に物事に取り組み、積極的に他人に働きかけを行うとともに、調査やヒアリングの企画を立てる初歩的な能力を身につける。

先修科目

課題探求プロジェクト基礎 A
課題探求プロジェクト基礎 B
国際地域概論

教科書・参考資料等

全体に関わる教科書はない。
調査先に応じて適宜文献を紹介する。

授業の方法

教室でのグループワーク、レクチャー、および学外での実地ヒアリングを中心とする。実地ヒアリングを効果的に行うため、知識や情報を意識的に集める必要があり、授業が行われない週、あるいは空き時間に学生はグループで集まり十分な事前準備を行う必要がある。

成績評価

活動途中、および最終プレゼンテーション後に提出するレポートおよび、取組みへの態度に関する学生間のピアレビュー・教員による観察評価

成績

80% レポート

20% 取組みへの態度に関するピアレビュー・観察評価

授業スケジュール

(1回の授業は、隔週1回2コマ連続を原則とするが、実施が1日にわたる場合ないし土日に実施される場合がある。また、授業の予定されていない週については、学生が実地ヒアリング等のためのグループワークや事後討論を実施するほか、テーマごとに相手先の都合も配慮して弾力的に授業日を変更する)

(地域創生アプローチ)

第1回：授業ガイダンス・プロジェクトの紹介

企業、自治体、地域づくりといった大まかなテーマの下にチームを編成するために、それぞれに関連する情報を学生に提供する。

グループとしての関心をまとめ、次回までの情報収集の計画を立てる。

第2回：グループごとの行動計画の立案

グループ分けを実施し、今後のグループ行動の計画および、事前学習計画を立案する。

第3回：共通レクチャー①

自治体行財政の仕組みや県・市町の直面するトピックスについて、教員およびゲスト講師によるレクチャー、相互討論を行う。

第4回：実地ヒアリング、参加観察①

事前学習や共通レクチャーを踏まえてチームごとに企業や自治体への実地ヒアリング、または活動の現場での参加観察を行う。

第5回：共通レクチャー②

地域づくりの現状と課題について、教員及びゲスト講師によるレクチャー、相互討論を行う。

第6回：実地ヒアリング、参加観察②

事前学習や共通レクチャーを踏まえてチームごとに企業や自治体への実地ヒアリング、または活動の現場での参加観察を行う。

第7回：共通レクチャー③

経営の組織や行動の基本、および地元企業の抱える問題について、教員およびゲスト講師によるレクチャー、相互討論を行う。

第8回：プレゼンテーションの準備

実地ヒアリング等により理解できた事柄、体験の振り返り、今後調査や実地での活動を行う方向性について議論し、まとめるための作業を行う。

第9回：各グループによる最終報告

(グローバルアプローチ)

第1回：授業ガイダンス・プロジェクトの紹介

学生に対して地域社会における外国人居住者や異文化理解の具体的な状況について調査するためのチームを編成するため、関連する情報を提供する。

第2回：共通レクチャー

外国人の居住をめぐる国内、国外で発生している諸課題について、教員およびゲスト講師によるレクチャー、相互討論を行う。

第3回：実地視察

学校等へ訪問し、外国語・異文化理解教育の現場を体験する。

第4回：ヒアリング調査の設計

必要な文献調査等を踏まえ、地域社会における外国人居住者や異文化理解に関するヒアリング調査を設計する。

第5回：ヒアリング調査の実施

地域社会における外国人居住者や異文化理解に関するヒアリング調査を実施する。

第6回：調査結果の分析、提案企画

ヒアリング調査の結果について分析し、地域の異文化理解の推進に向けてできることを企画する。

第7回：交流イベントへの参加

地域で開催される国際交流イベントに参加することで、企画の可能性について検討する。

第8回：プレゼンテーションの準備

成果報告の準備作業を行う。

第9回：最終成果報告

事前・事後学習

- ①各回の授業で指示された内容について、個人およびグループで調査および討議を行い、次回の授業の準備を行う。（予習）
- ②最終レポート作成に備えて各自毎回の授業および活動の振り返りを行う。（復習）